

平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月 公益社団法人日本グライダークラブの記録



クラブホームページ www.glider.jp

公益社団法人日本グライダークラブ定款より

(目的)

第 3 条 本クラブは、青少年を始め、大空に憧れを抱く者に対し、体験搭乗及び操縦・整備技術などの指導・教育を通し、航空知識の普及とこれらの伝承を行うと共に国際交流を行い、グライダースポーツ文化の向上・振興を図り、もってわが国グライダー界の発展に資することを目的とする。

(事業)

第 4 条 本クラブは、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) グライダーの啓蒙・啓発・普及に関する事業
- (2) グライダー及び曳航機の操縦技術の向上及びその指導者の養成
- (3) グライダーの操縦技術、整備技術等、及び安全運行・事故防止対策に関する研究並びにその施策
- (4) グライダー及び関係する装備・計器などの設計・制作・整備・修理・改造
- (5) この事業に必要な機材、施設、設備などの整備、及び人材の養成
- (6) その他本クラブの目的を達成するために必要な事業

Club Operation in 2013 Apr. ~2014 Mar.

平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月 公益社団法人日本グライダークラブ事業報告書

平成 26 年 4 月 1 日
公益社団法人日本グライダークラブ
理事長 吉田 正

当クラブは平成 24 年 1 月 13 日付けで、公益法人認定委員会から公益法人の認定を受けることが出来ました。公益社団法人日本グライダークラブは、国土交通省所管のもと、航空の安全の促進と発展を目的として設立された社団法人です。当クラブでは定款に掲げる理念に基づき、平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月期は下記の通り、公益事業をはじめとした様々な活動を実施しました。平成 26 年度も引き続き公益事業を積極的に推進する所存ですので、クラブの活動と運営に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

A. 公益目的事業 1(グライダーの操縦・整備技術の研究・伝承と指導者の養成)

I. グライダー普及のための体験搭乗会

	<p>「グライダー体験搭乗」</p> <p>期 間 :平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月の各 週末・祭日 主 催 :(公益社団法人)日本グライダークラブ 参加人数 :126 名 概 要 :日本グライダークラブのホームページなどを見て来場した体験搭乗希望者に対して、1 日につき 1～5 名の体験搭乗を行い、グライダーおよびクラブの活動への理解を深めた。</p>
	<p>「グライダー教室の開催」</p> <p>期 間 :平成 25 年 8 月 4 日、平成 26 年 3 月 16 日 主 催 :(公益社団法人)日本グライダークラブ 参加人数 :板倉町在住および在勤者など 9 名 概 要 :地域との交流、協調を目的として町の広報を通じ、体験搭乗希望者を募集し、1 日につき数名の体験搭乗を行って、グライダーおよび当クラブの活動への理解を深めた。</p>

II. グライダー・モーターグライダー操縦士の育成

	<p>「グライダー操縦士の育成」</p> <p>期 間 :平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月の各週末、祭日 参加人数 :練習生 14 名 概 要 :グライダー技能証明取得のための学科および飛行について操縦教育を行った。</p>
	<p>「モーターグライダーによる山岳航法訓練」</p> <p>期 間 :平成 25 年 11 月 8 日 参加人数 :練習生 1 名、教官 1 名 概 要 :スーパーディモナを使用して板倉滑空場～松本空港を往復し、山岳飛行、航法、ATC の慣熟訓練を実施した。</p>

	<p>「エアロバティック競技パイロットの養成」</p> <p>期 間:平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月の各週末、祭日 参加人数:パイロット 5 名 概 要:グライダー曲技世界選手権出場予定のパイロットの訓練を、曲技専用グライダーフォックスを使用して行った。</p>
---	---

Ⅲ. グライダーの普及ならびに飛行技術の向上を図るための講習会

	<p>「指定養成コース」 第 3 期 (平成 25 年度)</p> <p>期 間:平成 25 年 9 月 29 日～11 月 4 日 (10 日間) 参加人数:指定養成施設入所者 3 名 概 要:指定養成施設が開催され、3 名が自家用滑空機上級技能証明の審査に合格した</p>
	<p>「クロスカントリー講習会」</p> <p>期 間:平成 25 年 11 月 23・30 日、12 月 14 日 参加人数:35 名 概 要:クロスカントリー初心者のための座学が、経験豊かな講師の解説により 3 回開催された。</p>
	<p>「異常姿勢回避およびベーシックアクロ講習会」</p> <p>期 間:平成 25 年 10 月 12 日・13 日、19 日・20 日 参加人数:9 名 (座学および実地訓練) 概 要:緊急操作トレーニングの一環として G103 を使用し異常姿勢回避訓練を、またフォックスを使用してベーシックアクロ課目の実地訓練を行った。</p>
	<p>「曲技飛行ジャッジ講習会」</p> <p>期 間:平成 25 年 9 月 14 日 参加人数:7 名 概 要:板倉滑空場でのグライダー曲技飛行競技会開催に向け、米国 IAC 公式審判員白鳥洋平氏を講師として、ジャッジ育成のための講習会を開催した。</p>
	<p>整備コース「二等航空整備士(動力)整備講習会」</p> <p>期 間:平成 25 年 3 月～4 月 参加人数:インストラクター1 名、受講者 2 名 概 要:過去に当クラブの講習会に参加し、二等運航整備士、二等航空整備士に合格した人に、動力滑空機へのステップアップ講習を実施した。4 月 1 日、2 名とも実地試験合格した。</p>
	<p>整備コース「二等航空整備士整(上滑)講習会」</p> <p>期 間:平成 25 年 8 月 参加人数:インストラクター1 名、受講者 2 名 概 要:過去に当クラブの講習会に参加し、二等運航整備士に合格した人に、二等航空整備士(上滑)へのステップアップ講習を実施した。8 月 26 日、2 名とも実地試験に合格した。</p>

	<p>整備コース「二等航空運航整備士講習会」</p> <p>期 間 : 平成 25 年 4 月・7 月、平成 26 年 2 月 参加人数 : インストラクター 1 名、受講者 5 名 概 要 : 4 月 22 日、2 名実地試験に合格 7 月 1 日、1 名実地試験に合格 2 月 10 日、1 名実地試験に合格</p>
	<p>「AFRコース」(Annual Flight Review)</p> <p>期 間 : 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月の各 週末、祭日 参加人数 : 板倉滑空場で機長として飛行する操縦者全員 概 要 : 板倉滑空場にて、機長として飛行するパイロットに対して、クラブ規定により 1 年一度義務付けられている AFR を、滑空機、動力滑空機、曳航機毎に実施した。</p>
	<p>「特定操縦技能審査コース」(Bi Annual Flight Review)</p> <p>期 間 : 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月 週末、祭日 概 要 : 法制化された特定操縦技能審査(機長として飛行する操縦者は、2 年に一度の受験が義務づけられる) の、受験準備講習会を 4 回開催し、滑空機 47 名、飛行機 7 名が受験して合格した。平成 25 年度は機長として飛行する操縦者全員、AFR を兼ねて特定操縦技能審査を受験した。</p>

IV. 競技会の開催

	<p>第 3 回「OLC 藤倉記念チャリティーカップ」滑空競技会</p> <p>期 間 : 平成 25 年 3 月 1 日～平成 25 年 10 月 4 日 主 催 : (公益社団法人) 日本グライダークラブ 参加人数 : 62 名 概 要 : 競技飛行の普及と滑翔技術の向上を目的として、全国のグライダーパイロットに呼びかけ、第 3 回 OLC (オンラインコンテスト) 藤倉記念チャリティーカップを開催した。</p>
	<p>平成 25 年度「板倉マンスリーコンペ」滑空競技会</p> <p>期 間 : 平成 25 年 1 月～平成 25 年 11 月 主 催 : (公益社団法人) 日本グライダークラブ 参加人数 : 22 名 概 要 : グライダーの安全飛行のための基礎的な滑空気象の解析能力、および野外滑翔技術の向上を図る目的で、板倉滑空場をベースとして活動するグライダー愛好者を対象として、OLC を利用した競技会を開催した。</p>

V. グライダーの操縦技術、安全運航、事故防止対策に関する研究会、講演会、映画会などの開催

	<p>「航空安全講習会」</p> <p>期 間 : 平成 25 年 5 月 25 日 出席者数 : 56 名 概 要 : 航空 5 団体が企画する航空安全講習会に、会員 2 名が講師として参加し、また多くの会員が受講した。</p>
---	---

VI. 調査研究事業

	「山岳波(ウェーブ)などを利用した、滑空機の長距離、高高度飛行の研究」
	期 間 : 通年 概 要 : 高性能滑空機により、日本アルプス方面から東北地方、さらには北海道に至る飛行探査、研究を会員の丸山氏、市川氏、田上氏を中心として行った。

B. 公益目的事業 2(航空情報提供事業)

1. 板倉フライトサービスの運用

	「飛行援助用航空局」板倉 FLIGHT SERVICE (130.675Mhz)
	期 間 : 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月の運航日 概 要 : 板倉滑空場付近の航空の安全を図るため、付近を飛来する航空機からの飛行情報の要求に、的確に応答できる態勢を整えるため、フライトサービス担当者を各飛行日毎に指名している。

C. クラブ組織の整備

1. 定款及び内部規定に従った公益事業執行体制により、業務遂行の充実を図ると共に、新たな業務システム、会員データベースの構築など、作業の効率化を目指した。

D. その他クラブの目的に必要な事業

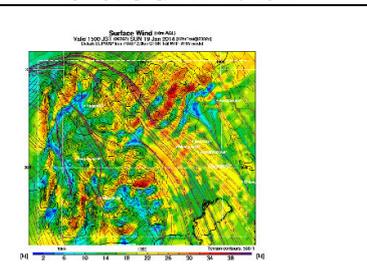
1. 騒音対策

	「飛行規制区域の設定および飛行経路の変更」
	概 要 : 騒音対策のため、滑空場周辺に4ヶ所の飛行規制空域を設定しその上空を避けて飛行することを取り決め、また時間帯によっては曳航離陸の方向を変更するなどの対策を講じている。 騒音クレームがあった場合、板倉町役場とも連携して真摯に対応している。

2. 地域との交流

	「渡良瀬遊水地フェスティバル」(栃木市主催)
	期 間 : 平成 24 年 9 月 8 日 概 要 : 遊水地周辺の各種スポーツ団体が集う、栃木市主催のフェスティバルに参加し、機体展示やハンドローンチグライダーの作製教室を開催した。

3. 板倉事務所の充実

	「板倉滑空場 事務所の充実」
	概 要 : インターネットを利用して気象情報の取得、解析する態勢の充実 クラブ員データベース、会計システムの整備活用を図った。

4 滑空場の整備

	<p>「滑走路の整備、拡張、路面の平坦化」</p> <p>期 間 :平成 25 年 10 月</p> <p>概 要 :渡良瀬河川事務所による堤防工事は終了したが、滑走路南側部分の路面平坦化が完成していないので、クラブ員有志により平坦化作業を行った。今後、安全に滑走路全長が使用できるように、さらに路面の整備を行っていく。</p>
---	--

5. 若年層支援プログラムの定着拡大

	<p>「ラインボーイ制度」</p> <p>期 間 :平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月 週末・祭日</p> <p>参加人数 :41 名</p> <p>概 要 :若年層支援プログラムの一環として、各大学航空部員および若手 OB を対象にラインボーイ制度を策定し、若年層が運航に参加することによりクラブに親しみ、卒業後に入会しやすくする方策を実施している。</p>
---	--

6. 他団体合宿・練習受入

	<p>板倉滑空場で合宿・練習・体験搭乗会を行った諸団体 早稲田大学航空部 東京工業大学 OB 会 三田ソアリングクラブ FOX アクロチーム</p> <p>期 間 :平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月の 週末・祭日</p> <p>概 要 :上記団体の飛行活動について、運航支援を行い、航空スポーツの発展と普及に努めた。</p>
--	---

7. 他団体・連絡会等の交流事業

	<p>日本および世界各地のグライダー関係団体などとの活発な交流</p> <p>概 要 :日本および世界各地(ドイツ、エジプトなど)の団体・会員と交流を深め、運航業務支援、知識・技術の共有、人材交流、79 条申請の相互協定、講習会・イベントの相互案内を促進する態勢を確立した。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1) 関東平野衝突防止会議(米空軍横田基地)への参加 ・飛行方式、空域等の情報交換。平成 25 年 4 月 21 日 2) 北関東航空連絡会(陸上自衛隊・北宇都宮駐屯地)への参加、 ・飛行空域等の情報交換。平成 25 年 7 月 11 日 3) 関東西部地区飛行連絡会(航空自衛隊・入間基地)への参加、 ・飛行空域等の情報交換。平成 25 年 7 月 10 日 4) 群馬県選出の議員団との懇談会 平成 25 年 9 月 1 日 ・航空スポーツの発展と安全確保についての意見交換 5) 下総航空基地周辺飛行安全会同(海上自衛隊・下総基地)への参加、 ・飛行空域等の情報交換。平成 25 年 11 月 28 日 6) 渡良瀬アクリメーション会議への参加 ・板倉滑空場の現況の発表。 7) 渡良瀬スカイスポーツ協議会の月 1 回の連絡会議への参加 ・他のスポーツ団体との情報交換。

E. 会員活動

1. 発航回数(平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)

総曳航回数 1571 回(曳航機内訳 ハスキー 1486 回、デモナ 85 回)、 デモナ発航回数 92 回
 自力発航動力滑空機(SL)発航回数 41 回 * 日本でも有数規模のクラブ運営を実施。

2. 総会員数147名 内訳 : 正会員98名、賛助会員49名。(平成25年3月31日現在)

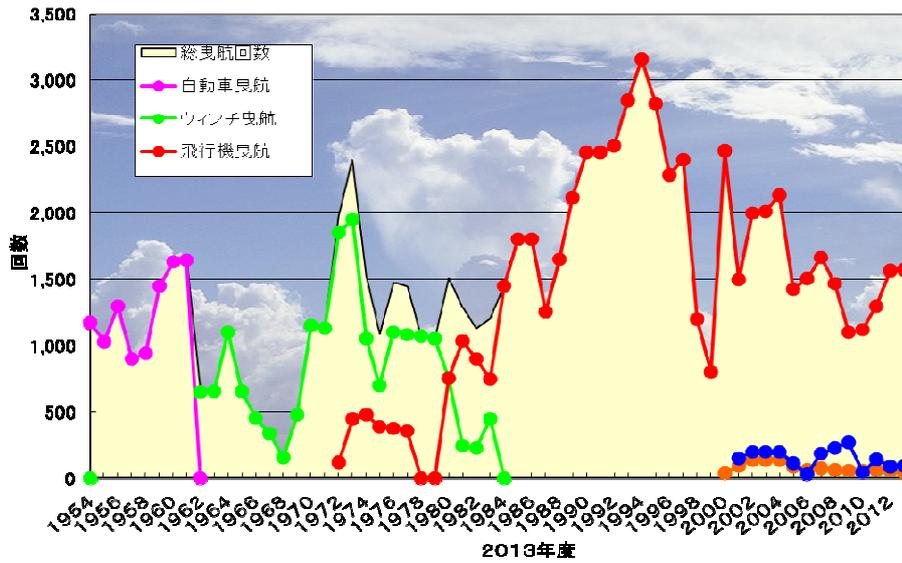
3. 操縦技能証明取得 : 自家用操縦士(滑空機上級)実地試験合格 3名(平成25年11月4日)

4. 整備士資格取得 : 二等航空運航整備士実地試験合格 5名 二等航空整備士実地試験合格(滑空機上級)2名 二等航空整備士実地試験合格(滑空機動力)2名

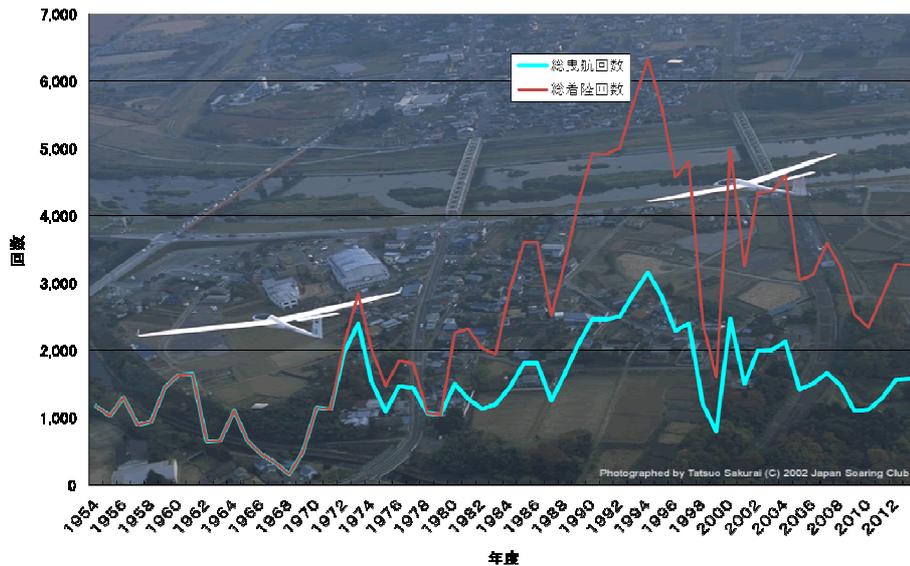
5. その他の活動

	<p>「ヨーロッパ滑空世界選手権」に会員が日本代表として参加</p> <p>期 間 :平成 25 年 7 月 6 日～20 日 概 要 :ポーランドのオストローにて開催されたヨーロッパ滑空選手権に会員の丸山氏が Discus2 で出場し、26 位の成績をおさめた。</p>
	<p>「グライダー一曲技世界選手権」に会員が日本代表として参加</p> <p>期 間 :平成 24 年 6 月 23 日～28 日 概 要 :ポーランド、チェンストホヴァで開催されたポーランドグライダー一曲技選手権に、会員の酒井氏がアドバンスドクラスで参加し、総合 3 位の成績を収めた。</p> <p>期 間 :平成 24 年 7 月 18 日～28 日 概 要 :フィンランド オリパにて開催された第 4 回滑空機曲技世界選手権に会員の酒井氏がアドバンスドクラスで出場し、29 位の成績を収めた。</p>
	<p>「テレビ取材」</p> <p>期 間 :平成 25 年 9 月 7 日 概 要 :日本テレビの番組「元気のアプリ」取材で会員の櫻井氏がフォックスのアクロを披露した。(10月2日に放映された)</p>
	<p>「関宿空まつりに参加」</p> <p>期 間 :平成 25 年 11 月 24 日 概 要 :千葉県関宿滑空場で開催された「空まつり」にフォックスチームが参加、会員の梶氏が曲技飛行を展示した。</p>
	<p>「妻沼グライダーフェスタに参加」</p> <p>期 間 :平成 26 年 3 月 1 日 概 要 :埼玉県妻沼滑空場で開催された「妻沼グライダーフェスタ」にフォックスチームが参加、会員の梶氏が曲技飛行を展示した。</p>

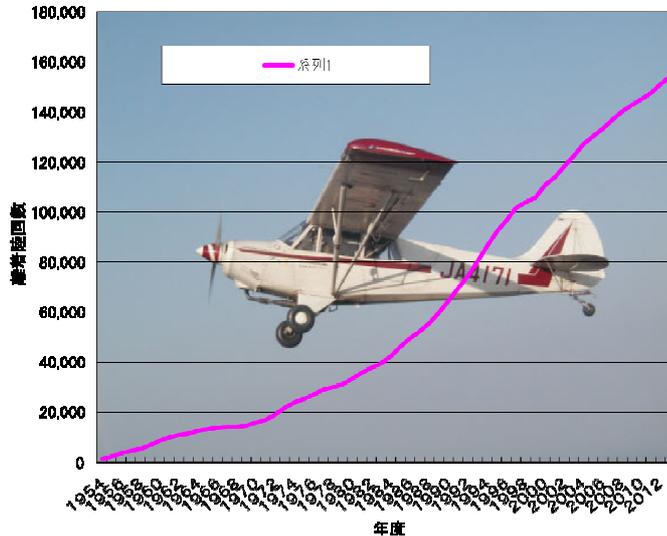
(公益社団法人)日本グライダークラブ 統計資料



(公社)日本グライダークラブ 総飛行回数・総離着陸回数対比(1954-2013年)



板倉滑空場 累積着陸回数(1954-2013年)



Japan Soaring Club

公益社団法人日本グライダークラブ
URL : www.glider.jp

◆板倉滑空場
住所：〒374-0101
群馬県邑楽郡板倉町除川 1286
TEL/FAX : 0276-77-0830

◆東京事務所
住所：〒105-0004
東京都港区新橋 1-18-1
(航空会館 9F)
TEL/FAX : 03-3591-7728
E-mail: shinbashi-office@glider.jp